

2026年3月24日

政府が武力攻撃に備えた

緊急シェルター確保へ

～月内にも基本方針案を閣議決定～

『緊急シェルター拡充整備』の盲点

次に問われるのは「避難先の空気」

北海道発の国産換気技術「ATバリア」シリーズ強化策へ

プロテクトアーツ株式会社(ヤブシタグループ、本社：北海道札幌市、代表取締役 小熊正輝)は、政府が進める緊急シェルター拡充の動きを受け、**災害時・有事における避難空間の空気環境対策**として、国産換気システム「ATバリア」シリーズを強化します。

政府は、武力攻撃から自然災害まであらゆる緊急事態に切れ目なく対応する体制構築に向け、地下街や地下駅構内、地下駐車場など、民間地下施設の活用を含む「緊急シェルター」の整備を進めます。緊急一時避難施設は2025年4月時点で全国約6万1千カ所が指定される一方、**地下施設は約4千カ所にとどま**っており、今後は**官民連携による地下空間活用**と、**数時間から数日程度の滞在機能の充実**が重要なテーマとなっています。こうした流れの中で新たに浮上しているのが、「**避難した先で、安全に呼吸できる環境をどう確保するか**」という課題です。

地下空間や閉鎖性の高い施設では、空間の確保だけでなく、煙や粉塵、有毒ガス、臭気、感染症リスクなど、空気環境そのものへの備えが避難の実効性を左右します。緊急シェルター整備が“**場所の確保**”から“**滞在機能の充実**”へ進む今、空気対策は見過ごせない社会課題になりつつあります。特に、地下街や地下駅構内、地下駐車場などは、外部からの危険を回避しやすい一方で、閉鎖性が高く、多くの人が一時間滞在する可能性がある空間です。また、政府が重視する自然災害時との「軍民両用」の観点からも、空気環境対策の重要性は高まっています。豪雨や地震などの災害時には、停電や換気機能の低下、避難者の密集による衛生リスクの増大も想定されます。緊急時でも一定の空気品質を維持できる設備をどう整えるかは、今後の緊急シェルター整備における重要な論点です。

北海道発の換気技術、欧州でも高評価「ATバリア」海外展開へ

同社は、国内やアジア圏での普及を進めるとともに、ヨーロッパ圏への展開にも取り組んでいます。特にヨーロッパでは、民間防衛や危機管理分野における関心の高まりを背景に、換気・空気浄化技術への需要が拡大しています。2025年11月にポーランドで開催された「PROTEGA 2025」への出展を通じて、現地企業との具体的な商談機会を獲得しました。展示会では、欧州各国のニーズ把握に加え、日本製品への信頼性の高さも確認されており、今後の海外展開に向けた足がかりとなっています。

緊急時の“呼吸を守る”ために プロテクトアーツがATバリア提案を強化

ATバリアシリーズは、放射性物質、粉塵、煙、有毒ガス、臭気、ウイルス・細菌など、複合的な空気リスクへの対応を目指して開発された国産換気システムです。緊急シェルターや避難所をはじめ、医療・福祉施設、公共施設、さらには家庭や小規模空間までを視野に入れ、用途に応じた展開を進めています。

避難空間において重要となるのは、単に空気を入れ替えることなく、外部から侵入するリスク要因を抑えながら、内部で過ごす人の呼吸環境をいかに守るかという点であり、ATバリアはその課題に対する具体的な解決策の一つとして位置づけられます。

同社は、2024年に名古屋大学との技術協力をもとに国内初の国産換気システムとしてATバリアを発表。その後も2025年の台湾開催「TADTE」への日本企業初出展や、家庭・小規模空間向け「ATバリアLite」の展開などを通じて、災害・有事に備える“空気のインフラ”としての社会実装を進めてきました。地下空間の活用や滞在機能の充実が求められる今、同社は緊急シェルター時代における新たな備えとして、空気環境対策の重要性を社会に提起し、自治体や民間施設、医療・福祉分野への提案を一層強化していきます。



プロテクトアーツ株式会社 代表取締役 小熊 正輝

政府による緊急シェルター整備の議論が進む今、本当に必要なのは「避難できる場所」だけではありません。そこで安心して呼吸できる環境だと考えています。災害や有事に最も必要なのは「空気」であり、わずかな時間の差が生死を分ける場面もあります。国内の展示会だけでなく、台湾やポーランドの展示会への出展を通じて、空気の安全性を守る技術が世界的に求められていることを実感しました。各展示会等で得た評価と知見を活かし、日本国内でも緊急シェルターや避難所、病院、介護施設などに向けた普及と技術革新をさらに進め、日本の防災力向上に貢献してまいります。

メディアの皆様取材いただけること

- ✓ 実機デモンストレーション（煙充満から空気清浄までの実演）
- ✓ ATバリアシリーズの実機および防爆バルブの展示撮影
- ✓ 操作パネル・可搬型ユニットの可動撮影
- ✓ 開発担当者および小熊代表取締役への単独インタビュー
- ✓ 名古屋大学・朝倉裕介准教授による共同開発コメントの共有（※事前調整により対応可）
- ✓ 緊急シェルター・避難所・医療福祉施設における空気環境対策の必要性についての解説

過去の記事は下記よりご覧いただけます



プロテクトアーツ シェルター

▼会社HP



▼過去掲載記事



記事や取材のお問い合わせ

プロテクトアーツ株式会社

札幌市中央区北6条西23丁目1-12

広報担当山田(080-1165-8563)